

2011年度

科目名	比較文学B			
担当教員	林 進			
配当	文 2・教育2・人間2		コード	53032
開期	後期	講時	金曜日3限	単位数 2
授業テーマ	日本文学と西欧文学の比較			
目的と概要	三島由紀夫、トーマス・マン、川端康成、谷崎潤一郎、カフカ等、古今東西の作家の文学作品をテーマ別に比較しながら、あるいは文学と他の芸術・学問分野を比較検討しながら、現代社会における文学の意味と機能を考える。映画ビデオ等も適宜活用しながら解説する。			
成績評価法	学期末のレポート(70%)と平常点(30%)で評価する。			
テキスト	プリント配布			
参考書	『三島由紀夫とトーマス・マン』林進著/鳥影社、その他授業中に紹介する。			
履修に当たっての注意・助言/準備学習	知への愛と欲をもって授業に臨むこと			
講義計画				
第1回	若さと老いの美学（サド・マゾヒズム文学）——三島由紀夫と谷崎潤一郎『痴人の愛』『鍵』			
第2回	仮面の文学——トーマス・マンと三島由紀夫			
第3回	変身とシュールリアリズム——カフカ『変身』と安部公房『赤い藪』とダリ『記憶の固執』			
第4回	武士道（1）——三島由紀夫『剣』（1）			
第5回	武士道（2）——三島由紀夫『剣』（2）			
第6回	教養小説——トーマス・マン『魔の山』			
第7回	アンチ教養小説（1）——ギュンター・グラス『ブリキの太鼓』（1）			
第8回	アンチ教養小説（2）——ギュンター・グラス『ブリキの太鼓』（2）			
第9回	エロティシズム（1）タブーの侵犯——三島由紀夫『春の雪』（1）			
第10回	エロティシズム（2）愛の死——三島由紀夫『春の雪』（2）			
第11回	孤独の侵犯——カフカ『審判』と安部公房『友達』			
第12回	政治と欺瞞——三島由紀夫『鹿鳴館』（1）			
第13回	偽りのワルツ——三島由紀夫『鹿鳴館』（2）			
第14回	二つの死——川端康成と三島由紀夫			
第15回	まとめ			